社会科シリーズ掲載

# 授業グレードアップ Vol. 10

## 小学校における歴史学習の工夫①　～授業改善のポイント～

小学校における歴史学習とは、端的に言うと、**「人物や文化遺産中心の歴史学習」**を実践することです。

『小学校学習指導要領』社会 第６学年の「目標」には、次のように示されています。

> 国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めるようにするとともに、我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情を育てるようにする。（下線は筆者）

そして、『学習指導要領解説 社会編』では、下線部について次のように述べています。

> 先人の業績については、歴史上の人物が当時の世の中の課題を解決し、人々の願いを実現していったことを調べたり、調べたことをまとめたりしながら、人物の働きを共感的に理解できるようにすること、また、優れた文化遺産についても、当時の人々の願いやものの考え方が具現化されたものであることを理解できるようにすることである。（下線は筆者）

そこで、今回から、歴史上の人物の働きを子どもたちに共感的に捉えさせるための工夫について数回に渡って紹介していきます。今回は、その１回目として、小学校らしい歴史学習を実践するための授業改善のポイントを紹介します。

人物の働きについて「**興味・関心**」を持たせ、「**共感的に**」理解させるためには、次のような視点から授業を改善することが大切です。

### 【小学校における歴史学習　授業改善のポイント】

① 学習問題・課題や教師の発問の**「主語」を人物の名前**にする。
　（例）「聖徳太子は、どのような願いをもって『十七条の憲法』を定めたのだろう。」

② 人物に興味・関心や親しみをもって学習できるように、**人物の写真や肖像画**を提示するとともに、**人物の伝記やエピソード（逸話）**などを紹介する。

③ 文化遺産が人物の願いや働きによって生み出されたものであることを理解させるために、**人物と代表的な文化遺産とをセット**にして単元や授業を構成する。
　（例）「足利義満と金閣」　「雪舟と水墨画」　「杉田玄白と解体新書」

④ 子どもが**人物と対話したり、人物の立場で考えたり**する場面を設定し、人物の願いや働きについて、共感的に理解できるようにする。

⑤ 人物の願いや働きや文化遺産の意味について、具体的、実感的に理解できるようにするために、**体験的な学習活動**を効果的に組み入れる。
　（例）雪舟･･･「すみ絵体験」、杉田玄白･･･「翻訳の模擬体験」、室町文化･･･「茶の湯・生け花体験」

次回は、④のポイントについて、「聖徳太子」の授業における実践を紹介します。